

登録コード	E2830900	開講年度	2026		
授業科目	住居学基礎				担当教員 山岸 明浩
英文授業名	Fundamental of Housing				副担当
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1時限
講義室	教育W506 講義室	教育W502	授業形態	講義・実技	遠隔授業科目
備考					
信大コンピテンシー	該当				
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ				
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				中・高等学校の家庭科を担当する教員として、基礎的な住生活領域全般の教育活動を行う上で必要不可欠な専門的知識と技能を身に着けるとともに、学んだ知識と技能を実践しながら、それらを振り返り、常に改善し、磨き上げていこうとすることができる。
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生、防災減災				
(3)全学横断特別教育プログラム					
(4)授業の概要	住居に求められる機能、建物の形態と構造について理解する。ライフサイクルに応じた住居の計画と維持・管理の方法について理解する。住居設計の進め方と空間計画の手法を学び、多様な家族生活に適応した論理的な計画や工夫ができるようにする。 担当教員が設計事務所での実務経験を活かして講義を行う。				
(5)授業計画	第1回：家庭科教育における住生活の内容について 第2回：風土と住まい 第3回：日本の住まいの特徴 第4回：空間と人間のかかわり（小レポート提示） 第5回：住まいの役割と機能1（安全性について） 第6回：住まいの役割と機能2（健康性について） 第7回：ライフサイクルと住まい1（居住者の観点） 第8回：ライフサイクルと住まい2（材料の観点） 第9回：住まいの寸法計画 第10回：住まいの空間構成計画 第11回：住居設計の進め方 第12回：製図の種類と家具の寸法 第13回：製図実習1（平面図の作成） 第14回：製図実習2（作成平面図の検討） 授業アンケートを実施 定期試験（レポート課題） 教育実習による授業の欠席の補講は、学生と相談の上対応する。				
(6)成績評価の方法	成績評価の考え方は、次のとおりである。 ・授業の達成目標を測る授業内ディスカッション 20点 ・授業の達成目標を測る小課題 30点 ・授業の達成目標を測る最終課題（平面図の作成） 50点 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。				
(7)成績評価の基準	(a)住居と風土のかかわりへの理解, (b)住居学の役割・機能についての理解, (c)授業内容に基づいた平面図作成課題による実践力について, (a)～(c)の項目について基礎的な習得ができていれば「合格水準にある」、どれか1項目について卓越した習得が認められれば「やや上にある」、どれか2項目について卓越した習得が認められれば「かなり上にある」、全項目について卓越した習得が認められれば「卓越している」。				
(8)事前事後学習の内容	毎回の授業では、前週、または次週の授業内容にかかわる発問を毎回行うので、履修にあたっては事前・事後の取り組みを行い授業に臨むこと。 この授業は、90時間の学修を必要とする。従って、60時間以上の時間外学習が必要となる。				
(9)履修上の注意	・全回出席すること。理由の如何を問わず、欠席回数が多く授業の達成目標に到達することができない場合、単位認定に至らないので注意すること。 ・製図実習では、授業で習得した内容が大切になるので、毎回の授業内容の理解を深めるために予習・復習を行うこと。 ・原則として対面で実施する（初回の授業は、履修生の全体状況を把握するため対面とする）。				
(10)質問、相談への対応及び連絡先	質問、相談は主にメールで応じる。 山岸明浩 yamaaki@shinshu-u.ac.jp 026-238-4187				
【教科書】	授業時に適宜紹介する。				
【参考文献】	授業時に適宜紹介する。				